

## 東大中文研究室への留学経歴と感想

薄 鋒 (ハク ホウ)

(中国大連外国語大学日本文学修士→日本東京大学中国語中国文学修士課程)

まず、東大中文研究室に留学する前の経歴を簡単に紹介させていただきます。2018年7月に中国大連外国語大学の日本語専攻を卒業し、2022年5月に同大学で日本文学の修士課程を修了した私は、日本近代漢文学を更に研究するため、同年10月に東大中文の研究生として初めて来日し、2023年4月に同研究室の修士課程に進学しました。

このような進路選択は、完全に学術研究の必要に導かれた幸運な結果だと思えます。中国の指導教官の孫佩霞先生に導かれて進んだ日本近代漢文学研究の道は、日本文学と中国文学の両方の基礎知識が必要で、学際的な性格が強いと言われています。そのため、日本文学のみを勉強した私は、日本に来て中国文学研究を学ぶ必要がありました。また、漢詩人自筆の草稿などの貴重資料は、海外では入手し難いため、日本に来なければ深く研究できません。そこで、中国で修士課程を修了する直前に、日本への留学計画を立てることにしました。

日本には大学が数多くあるため、留学先に非常に迷っていましたが、夏目漱石の漢詩に関する先行研究を回顧した際に、偶然にも齋藤希史先生の論文及び東大中文研究室の存在に気づきました。以前には想像でさえできなかったことですが、日本トップの東京大学においても、日本漢文学研究に関して、指導教官がいて、学術環境があるのだと驚きながら、同時にとても喜びました。これをきっかけとして、インターネットで東大中文研究室や進学方法について詳しく調べた上で、留学を準備し始めました。留学エージェントや大学院進学塾などを全然活用しなかった当時の自分は、不安と心配でいっぱいでしたが、不思議なことに、何となく進学できそうだという無知な自信にも溢れていたため、難しいと思うこともなくひたすら頑張りました。幸いなことに、最後に研究生として東大中文研究室に無事に留学に来ることができました。

次に、東大中文研究室に留学した後の体験を紹介させていただきます。日本文学専攻だった私は、趣味として中国古典詩の創作をしていますが、中国文学についてはほとんど独学でした。東大中文研究室に来て、ようやく正式に勉強できるようになりました。特に齋藤先生が教えてくださった中国古典詩に関する基礎知識と研究方法は、日本近代漢文学研究にも役立ち、本当に勉強になりました。他の先生方からも、戦国楚簡や近代中国文学、さらに世界文学などについて、刺激的な新しい知識を勉強しました。授業以外に、研究室の先

輩や後輩たちとの交流も盛んで、学術交流はもちろん、日常生活の交流も非常に温かいです。最も魅力的なのは、東大の図書館に貴重な文献資料が数多く所蔵されていることで、中国でなかなか入手できなかった資料も間近に見られるようになり、とても幸せです。

研究生としての半年は少し大変でしたが、非常に充実した時間を過ごしました。人文社会系研究科日本語教室の全ての授業、及び中文研究室の中国古典詩に関する授業を聴講した以外に、入学試験に必要な中国文学史の知識も数回復習しました。授業と復習のほか、私自身も計画通りに将来の研究に必要な資料を調査・収集し、初歩的な準備作業を行っていました。上述のいろいろな学術活動を通して、私は確かに留学の価値を深く実感しました。

学部三年生（2017年、当時は21歳）の時、日本の大森和夫・弘子（国際交流研究所）主催の「第一回・世界の日本語学習『日本語作文コンクール』」において、全世界54カ国・地域から5141編の応募作文の中から、『匠の精神』を求めたい！という作文で三等賞を受賞しました。なお、当時は一等賞が3人、二等賞が10人、三等賞が30人でした。その時から、私は日本語と文学に興味と自信をある程度持つようになったと同時に、学術研究においてもできる限り「匠の精神」に従ってきました。

幸運にも、東大中文研究室の修士課程に入学してから、東京大学外国人留学生特別奨学制度（東大フェローシップの傅徳林奨学基金）に推薦され、これからの2年間安心して研究できるようになりました。ここに、人文社会系研究科国際交流委員会の先生方、及び寄贈者の神原未綺様に深く感謝いたします。学部時代の「匠の精神」を引き継ぎ、東京大学人文社会系研究科の教育目的を参考にした上で、私は「人間の精神文化に対する真の理解を求めたい」という新たな学術目標を立てました。これからは、この学術目標に従って、日本および東アジアの人文学研究に微力を尽くしたいです。

最後に、東大中文研究室に留学に来て、本当に良かったと言いたいです。厳正かつ公平な入学試験、及び豊富で充実した支援制度のおかげで、人脈や大金など一切持たない平凡な自分でも、世界の中でも一流の理想的な学術環境で夢を叶えることができました。大げさに言えば、恐らく東大中文研究室に留学したことは、私の今と将来の運命を変えたと言えるでしょう。ここに、衷心より東大中文研究室に感謝の意を表します。

2023年8月17日

東大中文修士一年

薄 鋒（ハク ホウ）